

平成15年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	生活環境部みどりの課	直通電話	72-6122	事業コード	205010312	課内	20	作成日	平成16年8月31日
	担当者		田村 和人	担当課長			松本 博	担当部長	吉田 保雄

1 事業のアウトライン

1) 事業名	みどりのリサイクル事業	開始年度	H15	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度			
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード: 2050103 大項目 / 小項目 / 細項目 環境衛生の充実 / ごみ処理の充実 / ごみの減量化・リサイクルの推進				
3) 個別計画での位置付け	環境基本計画・水とみどりの基本計画・ごみ減量化計画				

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	家庭から出される剪定枝や草花を収集し、堆肥やマルチング材として再利用する。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	ごみとして家庭から出されていた剪定枝や草花を収集し、剪定枝はチップ状に粉碎してマルチング材として道路の植樹帯や公園での再利用をはかる一方、草花は堆肥にして再利用し、ごみの減量化にも繋げる。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	平成15年度は花川北・南地区限定で、試験的に実施。 家庭からごみとして出された剪定枝や草花などを収集し、みどりのリサイクル施設で、細かく裁断した剪定枝をチップ化しマルチング材として再利用し草花は堆肥として再利用する。
4) 15年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	平成14年度に柏公園に緑のリサイクル事業の作業場所としてヤード施設を作り、街路樹や公園内から出る樹木、草花の堆肥化の取組を行っている。 平成15年3月に「ごみ減量化計画」を取りまとめ、循環型社会を目指した資源の再利用として、家庭から出される剪定枝や草花を取り上げたらという市民からの意見があった。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	事業実施に当たっては、市民の協力がなければ成り立たない事業である。
7) 評価中間公表への市民意見	収集日を幅広く設定し、ごみ収集業者と連携し収集すべきである。混在防止のため回覧により周知を図るべきである。効果が直ぐあがらなくても継続すべきである。

3 事業に投入した行政資源

項目	H13	H14	H15	H16予算	H15事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	0	0	3,108	3,491	剪定枝等の収集、運搬	2,082
2) その他の間接経費(千円)					剪定枝の破碎	1,026
3) 従事正職員の人件費(千円)			848			
総事業費(1~3の合計;千円)			3,956		H15主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)			3,956			
市民一人当たり一般財源使用額(円)			71			
事務に従事した正職員のべ人数			0.10人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H13	H14	H15	H16	各指標の説明・算定方法
剪定枝の収集回数(回)	目標値		18	10	花川北、南地区でそれぞれ9回、計18回の収集運搬を行い、破碎は隔週で5回行う。
	実績値		18		
	達成率		100.0%		
剪定枝等収集量(トン)	目標値		216		14年度可燃ごみの割合を7.5%、地区割64%、週2回の内1回で50%、秋限定で75% 12000 × 0.075 × 0.64 × 0.50 × 0.75 = 216トン
	実績値		73		
	達成率		33.8%		
	目標値				
	実績値				
	達成率				

5 事業の成果

事業名：みどりのリサイクル事業

事業の成果を示す指標		H13	H14	H15	H16	各指標の説明・算定方法	確認方法
減量となったごみの量 (トン)	目標値			216		剪定枝、草花の収集量	重量計で、その都度計測した。
	実績値			73	目標レベル		
	達成率			33.8%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	花川北・南地区を対象に家庭から出される剪定枝等の収集を10月下旬から12月初旬にかけて、延べ18回実施した。市民に広報、回覧版、アイボードさらにはマスコミを活用し、周知に努めたが、市民に事業内容が十分把握されなかったことから対象物以外の異物混入や収集日以外に可燃ごみとして処理されたことから収集量が目標を大きく下回る結果となった。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	これまで可燃ごみとして焼却処分していた家庭から出される剪定枝をチップ化しマルチング材として、草花を堆肥として、資源活用する本事業は、環境やごみ減量化の面から考えて極めて重要な事業である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	市では、既に公園内から出る剪定枝等については、平成14年度から堆肥化の取組みを行っており、本事業についても、市民と行政が協働で行わなければならない事業と考えている。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	収集日については、大量に出される時期を想定し秋に試験的に行ったが、目標値を大きく下回る結果となった。このことは市民に事業の内容が十分理解されていなかったことが起因していると思われる。また、収集後における堆肥化の方法についても、堆肥になるまでの期間を考慮した取組みが必要である。				

7 平成15年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	D	[最終評価]	D (前年度)
	収集量が目標値を大きく下回る結果となったことから、収集時期や回数の問題など、また、堆肥やチップ化しマルチング材としての再利用の取組みについても検討が必要であると判断した		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	本事業は「市民」と「行政」が協働で取り組むことにより、大きな効果が生まれるもので、そのためには、事業目的や内容について市民理解が得られるよう周知の徹底をはかると共に堆肥や再資源へ向けた専門的な処理体制を構築し強力に事業の実施を進める。また、草花と剪定枝を分別した事業の実施を進める。
最終評価	課長評価を了承する。

9 平成17年度の方向性

事業規模	* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
		現状維持	一部見直し	大幅見直し
拡大方向			*	
現状維持				
縮小方向				
統 合				
休・廃止				
上についての説明	効率的な収集日の設定や専門的な処理体制を整え、収集回数を増やす方向で、資源化する方法を検討したい。			